

○事業所名	吉備の里ほけっと		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 10日		～ 令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 17名 (回答率：95%)
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 10日		～ 令和7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名 (回答率：100%)
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが楽しみながら学び、心の成長ができるように子どもの声に受容し認めながら、職員が統一した思いで携わっている	<ul style="list-style-type: none"> 放デイ療育終了後、必ず振り返りカンファの時間を設けることで支援の見直しや共感など、統一した支援が出来るように実施している。 定期的に、外部講師の専門的視点からの助言を受けることで職員のスキル向上を図る。 肯定的な声掛けややる気を起こさせるようなポジティブな言葉を使うよう心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカンファへ参加出来ない職員については、連絡ノートの活用や月1回職員会議に全員出席できるように勤務時間以外の手当を支給する。 外部や法人内部の研修会へ積極的に参加し、所内で伝達研修を行うことで個々のスキルを上げていく。
2	環境が整っている	<ul style="list-style-type: none"> 体育館を活用することで、天候を気にせず運動課題に取り組める。スポーツで体を動かすことで、気持ちの発散にも繋がっている。 農園で季節の野菜を育てる経験が出来る。 学習面では、必要な子どもには個別対応の学習に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 農園管理について：年間の作付け計画を立てることで無駄な出費を抑える。 子どもたちが、安全に取り組めるよう危険への配慮を怠らない。 苦手な学習内容に合わせた教材を工夫し提供する。⇒その子に（教材）合っているかをモニタリングする。
3	所属学校へ訪問することで、クラスでの様子や学習状況の把握をし担任の先生と情報共有を行うことで、その子に合わせた支援内容を考えていく（丁寧な支援に心掛ける）	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の方へ、訪問した内容を伝えることで安心感を持っていただき、更に、療育で取り組んでいく課題や支援内容を確認しながら進めていっている。 子供たちの成長や課題を参考にして、支援内容へ繋がっていっている。（教材や伝え方など） 	<ul style="list-style-type: none"> 所属学校と保護者のパイプ役となり、子どもたちが安心して過ごしやすい環境づくりを目指す。 所属学校の先生と連携が取りやすいよう信頼作りを行っていく。
4	送迎を行うことで、保護者の負担感を解消している	<ul style="list-style-type: none"> ドアツードアでの送迎を行うことで、安心安全に送り届ける。 安全運転を心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> まろくんエース（車内後部のスイッチが鳴ることで車内点検をしてブザーを押す）車両使用。 法人内の交通安全研修会開催へ参加し、交通安全への意識付けを図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎等で保護者の方と会う機会があるが、療育での様子などじっくりお伝えする機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳などで利用の様子を記載するが簡易になりやすい。また、事業所からの一方的な連絡になりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> lineなど手軽に連絡が出来るアイテムを活用し、タイムリーに伝える。（必要に応じて、電話連絡やお手紙で伝える。） 親子行事や保護者交流会の開催。
2	保護者同士や他の療育事業所や学童との関わりが少ない	<ul style="list-style-type: none"> 保護者間で関わる設定がなく、横のつながりが薄い。 療育交流会を年1回開催を心掛けているが、学童などのつながりが全くなし。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間行事として親子行事の設定をすることで、意識した取り組みが出来る。 気軽に集まる事が出来る会の企画を行う。 学童の視察を行いコミュニケーションを図る。
3	専門性のある職員確保	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢維持や体のしくみや機能、心のケアなどより専門的アプローチがあれば、子どもの身体の成長に生かせることができるのではないかと。 将来的には、医療ケア児の受け入れができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士や心理士などの専門分野の人材確保ができるよう働きかけを行う。